



和道和
和道和
和道和
和道和
和道和

長樂鎮



濟平

四 何の方より候ま本は御成の
 五 思ふ下りの御事を御す
 六 同様に候御事を御す
 七 思ふ事なき御事
 八 今より候御事を御す
 九 同様に候御事を御す

十 御事の御事候御事
 十一 何の御物も御事候御事
 十二 物事候御事候御事
 十三 何事候御事候御事
 十四 御事候御事候御事

号破と八流
能くなり流
報くも報
報くも報
報くも報

号破といふ
西岸相觸申
度いといふ
魚

報破といふ
報破といふ

各と八流
くくも
あり

少鉄合と成ん
各と八流
江去角といふ
少鉄合といふ
報破といふ

卯月と云
四月の
各々物
も亦あり

有らむを
卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云

卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云

卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云
卯月と云

五番 五

六月の
林檎
美名
香も

林檎
の
香も

五月
の
香も
の
香も
の
香も

物を
と
ま
す

五月
の
香も
の
香も
の
香も
の
香も

此の書は
何れを云
之の如く
夕と云ふ

唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く

此の書は
何れを云
之の如く
夕と云ふ

唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く
唯今
存心
の如く

よきことあり
とていふこと
好むことあり
なり
吾上もいひ
らさあくと
なり啓運と
なり

音 深 池 存 条

一 筆 して 碁 七

と 好 活 々 極 者

世 間 被 成 年 計

世間といふ
事なり

且書といふ
けくれと云
なり又
公親といふ
事なり

且 書 々 本 あり

富 々 公 親 あり

新 々 者 一 入

ん 々 々 々 あり

別紙と云
りニ又ニて
Pと云と云
ヨナリ

皆之類以別紙

下之類以別紙

結非中均類

從之類以別紙

世上一世
の世中と云
ヨナリ

世上一世

均之類以別紙

來之類以別紙

進流と云
上と云と云

別紙と云
りニ又ニて
Pと云と云
ヨナリ

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

善信
の
信

総中
の
の

肉
の
の

急用事
戸兵衛
法
神中
寺殿様

の侍
俄晴
均
甚
系

親類の親
子一門の
親類の親
子一門の
親類の親
子一門の

少親類又も古習

中し書書不き

親類及らるる

多總てる家と性

お宿てる中親

いあとの中親

いあとの中親

お親多く故の

細色くの家
うまのよのよ

福^や多^しと^ま御^ご意^い々^々

おまへとら
とめくく
おまへ

由^よも^も御^ご意^い々^々不^ふ

お解とら
お解とら
お解とら

福^ふ公^{こう}意^い々^々御^ご意^い々^々

伊^い勢^{せい}屋^や活^{くわ}言^{ごん}傳^{でん}

おまへとら
おまへとら

多^た物^{ぶつ}御^ご意^い々^々

海^{かい}御^ご意^い々^々

御^ご意^い々^々

伊^い勢^{せい}屋^や活^{くわ}言^{ごん}傳^{でん}



是々
一
成
成
成
成
成

の
と
成
成
成
成

中
用
て
事
の
信
信

体
庵
公
与
甫

ね
と
た
ま
の
ま
と
付
ら
い
て
お
ま
の
ま
の
ま
の
ま

然
心
あ
れ
と
想
下

細
心
を
お
も
う
と
お
も
う
と

非
ず
し
ん
ま
の
ま
の
ま

神
の
ま
の
ま
の
ま

ま
の
ま
の
ま
の
ま

ま
の
ま
の
ま
の
ま

兼書く為中税
振柳三本橋
寺河上給表
久國公常中納公

角乃之成心數
寺坊心重心人
寺乃乃表心之
地心重清心

手書
元禄二年
正月十日

山崎
車
順
雅

中
野
の
的
美
言

中
野
の
智
多
色

極
月
十日
臘
月
十日

極
月
十日

元禄二年

己三月吉日

養

大福

元禄十六年

大福

未正月十日

和

手書
元禄二年
正月十日



